

五智を説く

単に智慧といっても種々ある。今それを分類してみよう。先ず最高は神智、次が妙智、叡智、才智、奸智の順序で、大別して五段階になる。私は名づけて五智という。之を一つづつ説いてみよう。

神智とは最高の智慧で、之は普通人には得られない。特別の人が神から受ける智慧で、それはその人が、重大使命を神から委任されたからである。昔から『学んで知るを人智と言ひ、学ばずして知るを神智。』と言うが、一言にしてよく表わしている。

妙智というのは、観音妙智力などといい、前述の神智に
対し仏智ともいうべきもので、神智は男性的とすれば、妙
智は女性的ともいえるので、妙の字が女偏であるのも面白
いと思う。

叡智とは、賢明な人間が表わす智慧で、仏教で智慧証覚
とか、単に智慧というのは之を指すのである。然し今の世
の中は此叡智さえも働く人は洵に少ないのである。それは
いう迄もなく、邪念の為に物の正しい判断が付き難いから
である。此例を一つかいてみよう。今日政治家は勿論の
事、凡ゆる有識者と雖も、或問題に対し会議をする場合、

小さい問題でも、多数の人間が何時間も掛けて頭をひねらなければ結論が見出せない。少し大きな問題になると、十数人或は数十人が額を鳩め、侃々諤々の議論を闘わし、何回も何日も会合しても仲々結論を得られないというのであるから、如何に頭脳の働きの鈍いかという事である。

考えても見るがいい。如何なる問題と雖も結論はたった一つである。決して幾つもありはしない。それが多数の頭脳と、幾日もの日時がかかるというのであるから、実に情ないの一言に尽きるのである。之というのも全く叡智が足りないからで、叡智の足りないという事は頭脳が曇っている

からで、頭脳が曇っているという事は邪念があるからで、邪念があるという事は唯物主義を信奉するからで、唯物主義を信奉するという事は、神の实在を認めないからで、神の实在を認めないという事は、神を信じさせ得る宗教がないからであるとすれば、神の实在を如実に知らしむる宗教こそ、本当に生きた宗教といふべきである。斯様に諄々しく言わなければならない事程左様に、現代人は頭脳が悪くなっている訳である。

此意味に於いて叡智ある人は、如何なる問題に打つかつても数分間、乃至数十分間に結論を発見し得るのである。

之に就いて私は部下に対し、如何なる問題に当つても結論を見出すまでの論議は先ず三十分位を限度とし、長くとも一時間以上になる場合は、その会合を一時中止し、他日を期して再會議するか、又は直接私に相談せよというのである。

私の事を言うのは心苦しいが、私はどんな難問題に対しても数分間で結論を見出すのである。偶には急速に結論を見出し得ない場合もあるが、そういう時は強いて見出そうとしないで、一時それを延ばすのである。そうすると間もな

くインスピレーション的に、必ず結論が頭に閃めくのである。

次に才智であるが、之は誰も知っている通り表面だけの浅智慧であるから、一時的良くても、時が経つと必ず失敗したり信用を落したりする。言い換えれば愚智又は鈍智とも言えるのである。

奸智は、之も読んで字の如く邪悪の智慧で、悪智慧である。之も世間にはなかなか多く、而も智識階級、指導者階級にも相当多いのだから、社会が良くなりよう訳がない。故に斯ういう悪智慧が無くなる日本人になってこそ、明朗

な社会が出現し、立派な国となるのである。然らば、此奸智を抹殺する方法はありやというに、それは訳はない。悪智慧の発生地を全滅させる事である。その方法こそ、神の實在を信じさせる力ある宗教の活動による外はない。